

世界遺産 水辺に映る中世の街 ブルージュ

毛織物で繁栄、世界初の証券取引所がおかれ、資本主義社会、最初の拠点だった

2014年4月30日
NHKテレビ

ブルージュは橋の意味、海から10キロ離れたベルギー・ブルージュの街は12世紀に作られた運河の街、街のいたるところに石の橋が目につく。

今はベルギーを代表する観光地で2000年に世界遺産(ブルージュ歴史地区)に登録され美しい中世の街並みを現在に伝えている。夏の旅行、運河クルーズが人気。運河のあちこちに優雅な白鳥が羽を休めている。



富を手にした市民は街の真ん中、マルクト広場に高さ83mの鐘楼をたて、市場開始を告げる鐘(カリヨン)を鳴らした。

ここは松田聖子が歌った「ブルージュの鐘」の舞台である。



鐘楼の上からはブルージュの街が一望できる。



ブルージュは13世紀に毛織物の街として繁栄、中世ヨーロッパをリードした。

ベルギー、フランス北部、オランダ南部周辺をフランダース地方という。中央を流れるスヘルデ川で獲れる亜麻から作られたリネンが特産物で、のちの時代、その技術を生かして毛織物で世界最高の技術を誇った。

北海に出る玄関口、イギリスや北欧と内陸を結ぶ交易の中心地となり、ハンザ同盟の在外商館がおかれヨーロッパを代表する貿易拠点に成長した。

1277年以降、ジェノバの商人たちも大西洋沿岸を経由しやってきた。ブルージュは自治権を持ち、自由な貿易ができた。

中世そのままの商店の入り口の上には、字の読めない人でもその店が何の店かわかるよう彫り物が施されている。当時、ほとんどの市民は字が読めなかったという。



ブルージュには、世界初の証券取引所が開設され、金融・貿易の一大拠点として繁栄、ヨーロッパ中の富が集まってきた。資本主義社会の最初の拠点であった。

時代がたち、15世紀以降、神聖ローマ帝国のマクシミリアン1世が統治し、ブルージュの自治権を制限すると、金融センターとしての役割をアントワープに奪われた。

さらにブルージュの命綱だった運河と港が北海からの砂で埋まり、ついに貿易拠点としての座も失ってしまい、次第に町は衰退していった。

19世紀に運河は再建され、中世の街並みを今に伝え、世界の観光地として燦然と輝いている。